

■30.4.11 市長定例記者会見内容

日時 平成30年4月11日（水）午前11時～11時30分

場所 庁議室

出席 市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、企画調整課長、商工港湾課長

酒田記者クラブ 9社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、YBC、SAY）

コミュニティ新聞社（記者クラブの承認による）

■内容

1. 市長発表事項

- ・ なし

2. 懇談

【①新総合計画初年度にあたり市長所感】

- ・ 新総合計画初年度にあたり市長所感を伺いたい（記者） ⇒ 2年間かけて作ってきた計画が今年度スタートする。これまでの2年間は、公約の1つとして掲げたように市民が主体的に街づくりに関わる機運醸成をしたかった。今回、市民が参画しながら作った総合計画がスタートしたことはひとつの成果だと思っている。計画についてはこれからも評価しながら進めていきたい。市長に就任して最初の1年は、運がよかったものもあるが、いろいろなことに着手し獲得できたと思っている。今度は1つ1つ実施して行かなければいけない。総合計画がスタートする初年度は少しずつ成果を出すことが使命。一番の使命は産業振興まちづくりセンターの立ち上げだと思っている。そのために組織も大幅に改編し地域創生部も立ち上げた。30年度は市民に示せる成果を出せる1年間にしたい。行政だけが旗を振っても実をうまないの産学官金すべてまきこんで取り組んでいきたい。（市長）

【②白ばらについて】

- ・ 白ばらへのソフト面以外での支援について考えているのか（記者） ⇒ この前のイベントは行けなかったがよかったと聞いている。文化芸術基本条例、同計画の流れで大衆文化をいかにすることは観光・交流に寄与するだろうという思いがあるので、行政も少し支援したい。この前のショーはその価値があるという事の証明になったと思う。150万円の支援を予算で組んでいるが、大衆文化としてのショーを支援していきたい。建物ではなく中身の部分が文化資産、観光資産として生かせるという考えからソフト面で支援したい。誘客があれば来年度以降も一定の支援を考えている。ハード面の支援については今のところ考えていない。そこは民間の方が残してくれてこそ行政と民間の協働がなされるのではないと思う。民間の動きを見ながら行政の関わり方を決めていきたい。民間の方が建物を整備しつつ、誘客が諮れば素晴らしいと思う。（市長）

【③市長の体調について】

- ・ 体調の問題で会見が延期となったが、体調は大丈夫か（記者） ⇒ まだ完全ではない。少し腰の疲れがとれていない。今後スケジュールが立て込むので年度当初に休養した。しっかりケアし

て1年間やっていきたい。

【④育休代替社員人材バンクについて】

- ・ 現在の状況と目標は（記者） → 求人も求職も今のところまだ登録はない。PRしてやっていきたいとは思っているが目標はたてづらい。女性活躍支援員が女性活躍の話と一緒にPRするなどして企業にPRしていきたいし、企業のOBやOGを人材として起用することで企業に広まると良いと思っている。（商工港湾課長）
- ・ こういった取り組みは珍しいのか（記者） → 他には聞いたことはない。（商工港湾課長）
- ・ 節目があればプレスリリースしてほしい。こういった体制で運用していくのか（記者） → 市商工港湾課雇用対策係の職員3名と産業振興センターで連携してやっていく（商工港湾課長）

【⑤ふるさと納税】

- ・ 総務省から返礼品は地場産とするよう通達が出たと思う。酒田の場合はホストタウンの関係でニュージーランド産ワインなどあるが、今後の対応は（記者） → ホストタウンの関係は酒田市ならではの返礼品だし、必ずしも酒田市で作られたものに限る必要はないと思っている。（市長）総務省が言っているのは全く関連がないものはダメだという解釈。ホストタウンに関連する返礼品などまで制限されるものではないと解釈。（地域創生部長）
- ・ 現在酒田市の返礼品で他の自治体から入手しているものはあるのか → ないと認識している。事業者にも普段から注意喚起をしている（地域創生部長）

以上